

開催報告

豊橋技術科学大学未来ビークルリサーチセンター 第4回シンポジウム

自動車予防安全技術の現状と課題

未来ビークルリサーチセンター 安全コア
生産システム工学系 教授 章 忠

開催内容要旨

開催の目的

自動車の運転制御技術の高度化と利用者の多様化に伴い、高齢者ドライバの支援や飲酒や居眠りなどの危険運転の抑止に高い関心が集まっている。現在、各自動車メーカーは安全運転支援技術を開発・実車へ投入しつつあり、大学等研究機関においても、さまざまな観点から予防安全技術確立のための基礎研究が進んでいる。

本シンポジウムでは、予防安全のための要素技術の研究開発動向を中心に、予防安全技術の現状と今後の課題について、幅広く討議を行った。

シンポジウム概要

シンポジウムに先立ち、未来ビークルリサーチセンター 福本昌宏センター長より、同センター設立の趣旨および本学における未来ビークル関連研究に関する取り組み体制が報告された。

その後、津川定之 名城大学教授より「未来ビークルの期待と課題」と題して基調講演を頂いた。津川氏は、通商産業省工業技術院機械技術研究所研究員、独立行政法人産業技術総合研究所（知識工学研究室長）を歴任後、2003年10月から名城大学 理工学部 情報工学部に在籍し、主に ITS（高度情報化交通システム）など自動車の進化技術の研究に従事されている、同分野の第一人者である。また国内の ITS 関連の規格策定にも携わっており、同基調講演においては、ITS に関連する種々の通信技術・支援技術・基盤整備技術の開発・実用化に関して、国内外の現状を詳細にご報告頂いた。そして、これらの技術から展望される、安全な交通社会の将来像についてもご提言頂いた。数々の実証データに裏付けられたご報告は、参加者にとっても興味深い内容であった。

続いて招待講演として、鈴木達也名古屋大学教授ならびに谷口俊治相山女学園大学教授よりご講演を頂いた。鈴木氏は制御工学を専門とし、複雑な現象を定式化する非線形制御の観点から、自動車ドライバの運転行動モデルに関する研究についてご報告を頂いた。また谷口氏は行動心理学を専門とし、主幹総合交通心理士の資格を有している。その心理学的観点から、交通事故の原因となる人間行動およびその抑止対策についてご報告を頂いた。

この後休憩を挟み、武田一哉名古屋大学教授、中野倫明名城大学教授より、研究報告がなされた。武田氏は、すでに国内プロジェクトとしてドライバ行動を監視するための実験車両を開発しており、そこで得られた運転行動の分析方法についてご報告頂いた。中野氏は、高齢ドライバにおける視力の低下が及ぼす運転行動の危険性についてご報告を頂いた。

さらに、学内研究報告として、建設工学系 廣島康裕教授、体育保健センター 安田好文教授、生産システム工学系 三宅哲夫助教授からそれぞれ、研究報告がなされた。

各基調講演、招待講演、一般講演には、各々10分程度の質疑の時間を設け、参加者と講演者の間で活発な議論がなされた。全般として、特に、ドライバの行動監視および生理・心理解析に関しては、参加者の興味関心が高く、シンポジウム終了後に開催した講演者交流会においても、盛んに質疑討論がなされた。

当日は雨天にも関わらず、別添のとおり多数の来場を得て、会場も満席となり、盛況かつ意義のあるシンポジウムとなった。

開催に際してご尽力いただいた、研究協力課研究センター系の皆様に御礼申し上げます。

別添

豊橋技術科学大学未来ビークルリサーチセンター 第4回シンポジウム

自動車予防安全技術の現状と課題

期日：平成18年11月20日（月） 13:00～17:15

会場：豊橋技術科学大学未来技術流動研究センター 9F セミナー室

プログラム

開会挨拶：

未来ビークルリサーチセンターの説明

未来ビークルリサーチセンター長 福本 昌宏

基調講演：

未来ビークルの期待と課題

津川 定之 教授（名城大学）

招待講演：

(1) モード分割に基づく運転行動の判断・操作系のモデル化

鈴木 達也 教授（名古屋大学）

(2) 自動車の過剰な速度性能を制限する必要性

谷口 俊治 教授（椋山女学園大学）

一般講演：

(1) 自動車運転行動の分析とモデル化

武田 一哉 教授（名古屋大学）

(2) 高齢者の運転視力

中野 倫明 教授（名城大学）

(3) 道路交通工学分野における交通安全研究

廣島 康裕 教授（豊橋技術科学大学）

(4) 生体信号を用いた眠気の評価

安田 好文 教授（豊橋技術科学大学）

(5) ドライバの視線監視と運転状態の推定

三宅 哲夫 助教授（豊橋技術科学大学）

講演者交流会：17:30～ 学内福利厚生施設 ひばりラウンジ

主催・後援・協賛

主催：豊橋技術科学大学未来ビークルリサーチセンター

後援：豊橋市，田原市，豊橋市商工会議所，田原市商工会

協賛：(社)計測自動制御学会中部支部，(社)自動車技術会中部支部

参加状況

参加者総数： 67名（講演者8名を含む）

内訳：学外51名，学内16名

主な参加者所属：

株式会社デンソー，アイシン精機株式会社，株式会社豊田中央研究所，株式会社東海理化，アイシン・エイ・ダブリュ株式会社，アスモ株式会社，豊田合成株式会社，豊橋総合自動車学校

